

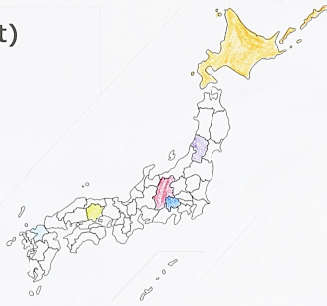
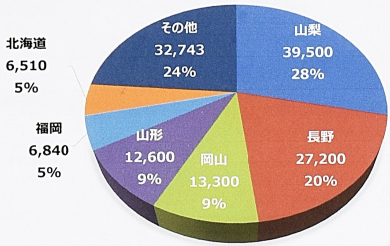
日本のぶどう生産の変化

<調査の目的>

ぶどう生産が盛んな山梨県でも、年々ぶどう畑の数が減ってきているように感じる。私の祖父母もぶどうを作っており、畑の面積が減ってきている。山梨のぶどう農家は今後も大丈夫なのか？農林水産省の統計データなどから予測する。

1.

令和4年 都道府県別ぶどう出荷量 (t)

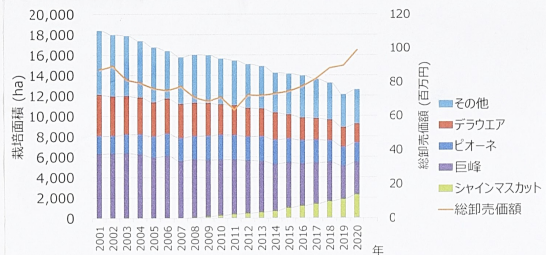


出典：農林水産省 作物統計調査 令和4年産日本なし、ぶどうの結果樹面積、収穫量及び出荷量

日本のぶどう生産量第一位は山梨県。日照時間が長く、昼夜の寒暖差が大きいことから甘くて美味しいぶどうが収穫できる。そんな山梨県でもぶどう畑が減っている？日本全国ではどうなのか？

2.

生食用ぶどう栽培面積と卸売価額の推移

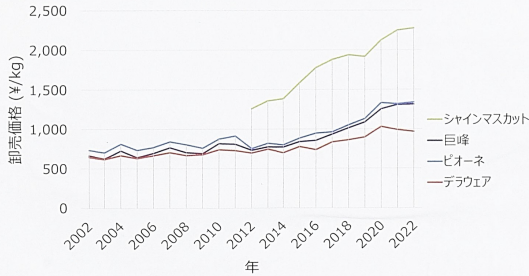


出典：農林水産省 特産果樹生産動態等調査 2001年～2020年
農林水産省 青果物卸売市場調査 2001年～2020年

日本全体で年々ぶどうの栽培面積が減っている。人気のシャインマスカットは急増しているが、巨峰、デラウェアなどは20年で半減。全体でも3割程度減っている。しかし卸売価額は10年前から増加している。何故？

3.

卸売り価格推移

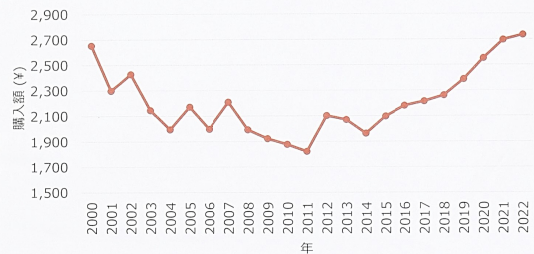


出典：東京都中央卸売市場 市場統計情報 2002年～2022年

1kgあたりの卸売り価格が年々上昇、特に最近生産量が増えているシャインマスカットが急激に上昇している。農家は単価の高いシャインマスカットを生産することで効率よく稼ぐことができている。

4.

世帯当たりの年間購入額

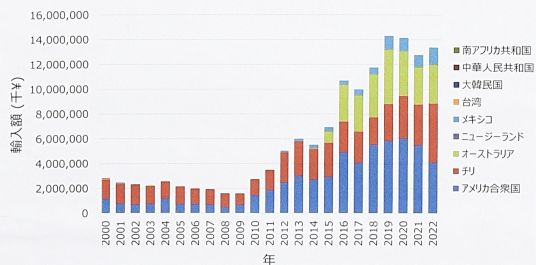


出典：総務省 家計調査 2000年～2022年

では、日本でどれくらいのぶどうが食べられているのか。世帯当たりの年間購入額も10年前から増加している。本当にみんなどんどん高くなるぶどうを買って食べているのか？

5.

生鮮ぶどう 輸入額推移



出典：財務省 貿易統計 2000年～2022年

上のグラフから2010年からぶどうの輸入量が増えていることがわかる。2014年にオーストラリア産の輸入が解禁されてからさらに急激に増加している。冬でも安く買えるぶどうの種類が増えたことも、購入額が増えている理由かもしれない。

<まとめ>

- 年々ぶどうの栽培面積は減っているが、価格が高く人気もあるシャインマスカットなどの品種の栽培量を増やすことで、出荷額を維持できている。
- その反面、安く買える外国産ぶどうの輸入が急激に増えており、高い国産ぶどうの販売が減少してしまう恐れがある。
- 日本のぶどう農家の未来のために
 - シャインマスカットのように美味しく食べやすい品種の開発
 - ロボットやAIなどで簡単に栽培できる方法の開発
 などが必要かもしれない